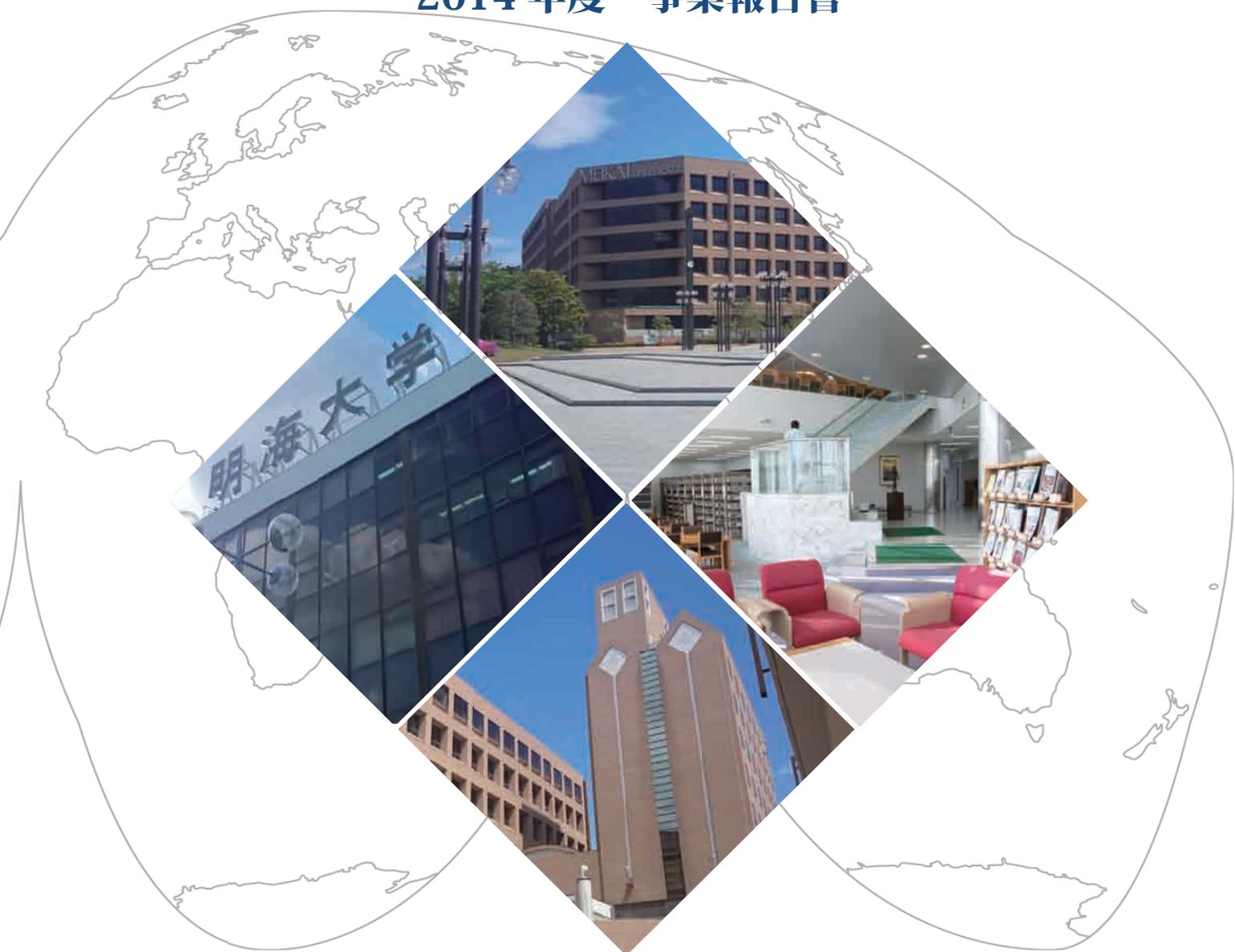


# MEIKAI UNIVERSITY

2014 年度 事業報告書



学校法人 明海大学



## 建学の精神

社会性・創造性・合理性を身につけ、  
広く国際未来社会で活躍し得る  
有為な人材の育成をめざす

### 社会性

今や、人類共存の理念は、地球の資源問題、環境問題を抜きに考えられない時代を迎えました。地球規模で進行しつつある高齢化社会に伴う労働社会問題、低迷を続ける国際経済問題、発展途上国における社会経済問題等々、解決すべき問題は山積しています。これら全人類の課題と取り組み、人類の繁栄と幸福を推進するため、和を重んじ、心豊かな社会性に富む人間を育成し、学際領域にも及ぶ総合的教育研究を行います。

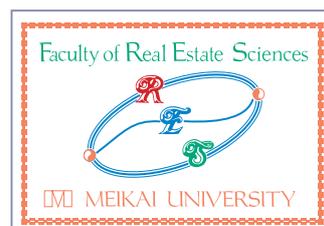
### 創造性

今日、科学技術・学術研究の先端が次々に新しい展開をしており、大学としてその時代の最先端をどのようにリードしていくかという課題に直面しています。しかし、大切なことは、一方的な技術の振興を図ることではなく、技術の進歩と人間性の調和を図りつつ世界への貢献を果たさなければなりません。人類の生き方について、未来からの挑戦を受けていると言われる今日において、学問の世界は、まさに自然科学はもとより人文・社会科学などの分野においても激動の時代を迎え、学際的な領域から価値の見直しが迫られています。知の継承、創造の拠点である大学はより国際競争力を強化し、大学の多様性を発揮して、このような時代において、総合的見地から、国際未来社会を切り拓く創造性豊かな教育研究を行います。

### 合理性

高度情報化社会を迎え、情報量は増大し、情報なくして個々の人間は、自己の意思決定すら出来ない感を呈しています。科学技術の発達、人々の生活様式を変え、価値観にも大きな影響を及ぼすことから、科学技術の独り歩きは許されることはありません。従って、科学技術のコントロールの完全を期するとともに人間性の発揚に心がけ、未来社会を切り拓く信念が重要となります。このため、合理性ある教育研究の場を醸成します。

このように本学の建学の精神は、社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成を目指すものであります。



## みなさまへ

欧州や中国の景気減速など世界経済に不透明感が漂う中、わが国ではアベノミクスにより一応景気は回復基調にあります。一方で大学の経営環境は、少子化の進行等により一層厳しさを増しており、大学が持続的な発展をするために、社会の変化を見越した絶え間ない改革と努力を続けていく必要に迫られています。

この危機感を踏まえ、本学がこの1年間に行ってきた取組みについて、2014年度事業計画の5つの柱、すなわち「教育の質の向上」「教育研究環境の充実」「地域交流と社会貢献の推進」「優秀な学生の確保」「安定した財務基盤の維持」に沿ってご報告いたします。

まず「教育の質の向上」では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、学生データベースや授業出欠管理システムを活用したきめ細やかな教育を実践し、そのために教職員を対象としたFD・SDを推進しさらなる資質の向上を図りました。歯学部では臨床系科目・臨床実習の充実を図るためこの2015年度から新カリキュラムがスタートしました。卒業後のサポートも、昨年3月に開設した「明海大学歯科総合医育成コース認定医制度」をはじめ、大学院と生涯研修プログラムの充実と連携強化を図り、より高度な専門知識・医療技術を必要とする卒業生らの期待に応えてまいりました。但し、第108回歯科医師国家試験は、新卒・既卒を合わせた合格率が全国平均を下回り、前年度に比べ順位が大幅に下がりました。この結果を真摯に受止め、また全国の歯科大学ならびに歯学部が徹底した国試対策に取り組んでいることを踏まえ、本学においても精緻な分析とともに指導方法の改善、また少人数グループによるチュートリアル教育の一層の充実を図り、再度全国トップクラスの合格率を目指します。浦安キャンパスでは、各学部でカリキュラム改革や進級条件の制定、実践教育の徹底、キャリア教育の充実等により学士力の強化と就職率の向上を図り、さらに、海外インターンシップの充実、新たな留学制度、外国人留学生の日本語力向上を目指すカリキュラムなど国際性の涵養と留学生支援を目的とした制度がスタートしております。主な動きとしては、外国語学部で昨年4月に開設したグローバル・スタディーズ専攻（GSM）が2年目を迎え、経済学部ではようやく4年間を通じたゼミ担当制が実現し、不動産学部で宅建士資格の全員取得に向け第1歩を踏み出しております。

質の高い教育研究と豊かなキャンパスライフを支える「教育研究環境の充実」については、無線LAN環境の充実をはじめとするICT化を全学的に推進する一方、老朽化した施設・設備については計画的な整備改修を進めてまいりました。歯学部では、少人数教育用のグループ学習室の増設や今夏の完成を目指してPDI浦安歯科診療所の拡充に着手したほか、診療機器や医事システムの更新を行いました。浦安キャンパスでは、2階AV講義室の設備等の一新、スマートフォンを活用したポータルサイトの利便性向上をはじめとした学修環境の整備と、体育施設の設備充実などの整備を行いました。

大学が地域社会において果たす役割への期待が高まる中、「地域交流と社会貢献の推進」についても、地元自治体との行政施策面での協力関係を深化させるとともに、公開講座やシンポジウムの開催、地元自治体等と連携し「こども大学」の開催など多様な取組みを行ってまいりました。歯学部では、付属病院及びPDI各診療所のサービス向上を図るとともに、歯科医療の発展のため他大学に先駆けて取り組んできた歯科医学生涯研修プログラムの充実を図ってまいりました。浦安キャンパスでは従来からの大学図書館の市民開放や多彩な講座と充実したスポーツ施設・設備を有するオープンカレッジにより地域住民の生涯学習を推進してきたことに加え、新たにジェフユナイテッド株式会社との連携による小学生を対象としたサッカークリニックを開催し好評を博しました。また、昨年7月には、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、ホスピタリティ・ツーリズム総合研究所を設置し、観光業の発展と人材育成のために貢献する体制を整えました。また、地域社会のみならず、ベトナム・フエ大学、南アフリカ・ウェスタンケープ大学との学術交流協定を新たに締結するなど、国際交流も従来以上に積極的に進めてまいりました。

大学間競争が激化する中で、「優秀な学生の確保」のため、WEBやマスメディアを活用した情報発信と効果的な広報活動を進めつつ、オープンキャンパスを訪れた受験生へのきめ細やかな対応、入学予定者に対する入学準備学習の実施等にも力を入れてまいりました。歯学部では志願者が前年度比約95%増となりましたが、浦安キャンパスの文系学部では定員確保したHT学部以外は全学部・学科で昨年に引き続き定員割れとなりました。現在取り組んでいる各種施策の具体的な効果がまだ現れておらず、まだまだ苦戦が予想されますが、2016年度入試までの限りある時間の中で、教育成果の可視化を強力に推進すると同時に、より一層の情報発信力強化を図り、優秀な学生の確保に努めてまいります。

以上の大学の活動を支える財務基盤については、開学以来健全な経営を心がけ、本学は国内でも有数の財務体質を有しています。この「安定した財務基盤」を維持しつつ、長期的な視点に立った合理的な予算編成と執行、科学研究費助成事業や企業等からの受託研究費などの外部資金獲得の推進、安全性と確実性を重視した組織的な管理体制による資産運用を行ってまいりました。今後も堅実な経営を続けるとともに、この財務基盤を礎とした質の高い教育研究活動を続けてまいります。

建学の精神の具現化に向け、さらなる大学の発展に鋭意努力してまいります。

2015年5月19日

学校法人 明海大学

理事長 宮田 淳



# 学校法人の概要

## ■ 学校法人の沿革

- 1970年 3月 学校法人城西歯科大学設立  
4月 埼玉県坂戸市に城西歯科大学を開学  
6月 歯学部附属病院を開設
- 1977年 4月 大学院歯学研究科博士課程を設置
- 1979年 10月 メキシコ合衆国メキシコ州立自治大学と姉妹校提携
- 1980年 7月 埼玉県入間市にPDI 埼玉歯科診療所を開設
- 1987年 11月 中華人民共和国北京医科大学口腔医学院（現 北京大学）と姉妹校提携
- 1988年 4月 千葉県浦安市に外国語学部（第一部・第二部）経済学部（第一部・第二部）を設置  
法人の名称を学校法人明海大学に、大学の名称を明海大学に改称  
5月 岐阜県瑞穂市の朝日大学と姉妹校提携  
11月 アメリカ合衆国アラバマ大学バーミングハム校、ニューヨーク州立大学バッファロー校と姉妹校提携
- 1990年 4月 外国語学部に教職課程を設置  
7月 中華人民共和国北京師範大学と姉妹校提携
- 1991年 4月 浦安キャンパスに別科日本語研修課程を設置  
10月 タイ王国サウス・イースト・エイシア・カレッジ、カナダサスカチュワン大学歯学部と姉妹校提携
- 1992年 4月 浦安キャンパスに不動産学部（第一部・第二部）を設置  
7月 アメリカ合衆国カルフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部と姉妹校提携
- 1993年 4月 浦安キャンパスにオープンカレッジを開設、中華人民共和国北京外国語学院（現 北京外国語大学）と姉妹校提携
- 1995年 5月 台湾東呉大学外国語文學院と学生派遣提携
- 1997年 2月 ニュージーランド国立ウェリントン教育大学（現 ビクトリア大学）と姉妹校提携
- 1998年 1月 イギリスシェフィールド・ハーラム大学テソル・センターと学生派遣合意書締結  
3月 大韓民国産業大学校（現 慶雲大学校）、大邱専門大学（現 大邱科学大学）と学生相互派遣協定締結  
4月 浦安キャンパスに大学院応用言語学研究科・経済学研究科・不動産学研究科修士課程を設置  
台湾東呉大学と姉妹校提携  
7月 大韓民国同徳女子大学校と学術交流協定締結、オーストラリアセントラルクインズランド大学と学術交流協定締結  
12月 台湾銘傳大学と学術交流協定締結
- 1999年 2月 イギリスレディング大学と学生派遣合意書締結  
4月 外国語学部（第一部）、経済学部（第一部）、不動産学部（第一部）に編入学定員を設定  
5月 オーストラリアモナッシュ大学と学生派遣合意書締結  
7月 カナダアルバータ大学と学生派遣合意書締結
- 2000年 4月 浦安キャンパスに大学院応用言語学研究科・不動産学研究科博士後期課程を設置  
外国語学部（第一部・第二部）経済学部（第一部・第二部）不動産学部（第一部・第二部）を昼夜開講制に改組  
I N T教育センター（現 総合教育センター）を設置  
6月 アメリカ合衆国セントラルフロリダ大学と交換留学合意書締結  
12月 中華人民共和国復旦大学、浙江大学と学生派遣合意書締結、浦安市と相互協力に関する合意書締結  
大韓民国建国大学校と学術交流協定締結
- 2001年 1月 大韓民国釜山外国語大学校と学術交流協定締結  
6月 台湾大葉大学と学術交流協定締結  
7月 大韓民国忠南大学校と学術交流協定締結、中華人民共和国第四軍医大学と姉妹校提携
- 2002年 4月 中華人民共和国第四軍医大学と学術交流協定締結  
7月 浦安市と浦安キャンパスメディアセンター（図書館）が行う市民開放事業に関する協定締結  
10月 浦安市と学生の社会貢献活動の推進に関する協定締結  
11月 台湾南台科技大学と学術交流協定締結
- 2003年 9月 大韓民国江原大学校と交流協力覚書締結
- 2004年 7月 東京都渋谷区に明海大学PDI 東京歯科診療所を開設
- 2005年 2月 浦安キャンパスに明海大学PDI 浦安歯科診療所を開設  
3月 台湾国立政治大学と学術交流協定締結  
4月 浦安キャンパスにホスピタリティ・ツーリズム学部を設置  
6月 台湾義守大学と学術交流合意書締結
- 2006年 5月 フィンランドトゥルク大学歯学部と姉妹校提携  
9月 千葉県勝浦市に明海大学セミナーハウス勝浦コテージを開設  
12月 浦安キャンパスに不動産研究センターを設置
- 2007年 3月 公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価により大学評価基準に適合していると認定  
6月 アメリカ合衆国ハワイ大学と学術交流合意書締結  
7月 財団法人日本不動産研究所と研究交流協定締結
- 2008年 4月 イタリアシエナ大学歯学部と文化学術交流協定締結  
7月 イギリスブライトン大学と学生派遣合意書締結
- 2010年 8月 イギリスカンタベリークライストチャーチ大学と学生派遣合意書締結
- 2013年 3月 公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価により大学評価基準に適合していると認定  
11月 株式会社ANA 総合研究所と連携協力に関する基本合意書を締結
- 2014年 7月 浦安キャンパスにホスピタリティ・ツーリズム総合研究所を設置  
8月 ベトナムフエ大学と学術交流協定締結
- 2015年 3月 南アフリカ共和国ウェスタンケープ大学歯学部との学術交流協定締結

■ 資産の総額 (2015年3月31日現在)

154,082,933,002円

■ 主たる事務所

埼玉県坂戸市けやき台1番1号

■ 施設の所在地

埼玉県坂戸市	歯学部 大学院 歯学研究科 明海大学病院
埼玉県入間市	PDI 埼玉歯科診療所
千葉県浦安市	外国語学部 経済学部 不動産学部 ホスピタリティ・ツーリズム学部 大学院 応用言語学研究科・経済学研究科・不動産学研究科 別科日本語研修課程 PDI 浦安歯科診療所
千葉県勝浦市	明海大学セミナーハウス「勝浦コテージ」
東京都渋谷区	東京事務所 監査・評価室 PDI 東京歯科診療所

■ 設置する学校・学部・学科等及び学生数 (2015年5月1日現在)

明海大学					
学部等	学科・研究科等	開設年度	入学定員	収容定員	現員
外国語学部	日本語学科	1988年	85	330	285
	英米語学科	1988年	210	820	661
	中国語学科	1988年	75	290	110
経済学部	経済学科	1988年	430	1,660	1,285
不動産学部	不動産学科	1992年	265	1,030	600
ホスピタリティ・ツーリズム学部	ホスピタリティ・ツーリズム学科	2005年	200	800	759
歯学部	歯学科	1970年	120	720	833
大学院	応用言語学研究科 博士前期課程	1998年	15	30	29
	応用言語学研究科 博士後期課程	2000年	5	15	6
	経済学研究科 修士課程	1998年	15	30	24
	不動産学研究科 博士前期課程	1998年	15	30	11
	不動産学研究科 博士後期課程	2000年	3	9	7
	歯学研究科 博士課程	1977年	18	72	65
別科	日本語研修課程	1991年	65	65	54
合 計			1,521	5,901	4,729

(注記)  
3年次編入学を含む

■ 役員・評議員

【役員】

理事長 宮田 淳	理事 大友 克之	監事 永松 榮司
副理事長 増岡 由弘	理事 岡村 明夫	監事 菱田 健治
常務理事 市川 重雄	理事 坂上 宏	相談役 宮田 侑
常務理事 梅澤 伸男	理事 鳥飼 重和	
理事 安井 利一	理事 中畠 裕	

【評議員】

宮田 淳	宮田 侑	尾上 恭平	南 直臣	増岡 太郎	草間 薫
増岡 由弘	新藤 宣夫	清村 寛	高橋 偉茂	谷澤 律	岡村 明夫
市川 重雄	新井 千秋	河津 寛	池下龍一郎	朝日 讓治	佐々木康史
梅澤 伸男	青木 忠明	宮田 捷信	大友 克之	中山 浩之	申 基喆
安井 利一	木野村孝子	金子 裕介	中畠 裕	鳥飼 重和	坂上 宏

■ 専任教職員数

【教育職】	
学 部 等	人数
学長	1
外国語学部	32
経済学部	29
不動産学部	18
ホスピタリティ・ツーリズム学部	18
歯学部	132
総合教育センター	19
別科	3
合 計	252

【事務職等】	
部 局 等	人数
大学	148
明海大学病院	18
明海大学 PDI 歯科診療所	6
合 計	172

【医療職】	
部 局 等	人数
明海大学病院	120
明海大学 PDI 歯科診療所	54
合 計	174

■ 教学役職者

学 長	安井 利一	明海大学病院長	申 基喆
副学長	佐々木康史	明海大学病院副院長	長谷川彰彦
副学長	大津由紀雄	浦安キャンパスメディアセンター長	阪本 一郎
外国語学部長	遊佐 昇	歯学部メディアセンター長	羽毛田慈之
応用言語学研究科長	遊佐 昇	歯学部中央研究部長	大森 喜弘
経済学部長	下田 直樹	浦安キャンパス教務部長	佐々木康史
経済学研究科長	下田 直樹	浦安キャンパス学生部長	河原 伸一
不動産学部長	中城 康彦	歯学部教務部長	大川 周治
不動産学研究科長	中城 康彦	歯学部副教務部長	村本 和世
ホスピタリティ・ツーリズム学部長	草野 健	歯学部学生部長	草間 薫
歯学部長	中嶋 裕	歯学部副学生部長	日比野 靖
歯学研究科長	中嶋 裕	浦安キャンパス保健管理センター所長	下島 孝裕
浦安キャンパス総合教育センター長	佐々木康史	歯学部保健管理センター所長	長谷川彰彦
日本語学科主任	柳澤 好昭	PDI 統括部長	申 基喆
英米語学科主任	津留崎 毅	別科長	柳澤 好昭
中国語学科主任	遊佐 昇	別科教務主任	内田みつ子
経済学科主任	中嶋 隆一		
不動産学科主任	表 明榮		
ホスピタリティ・ツーリズム学科主任	内苑 孝美		

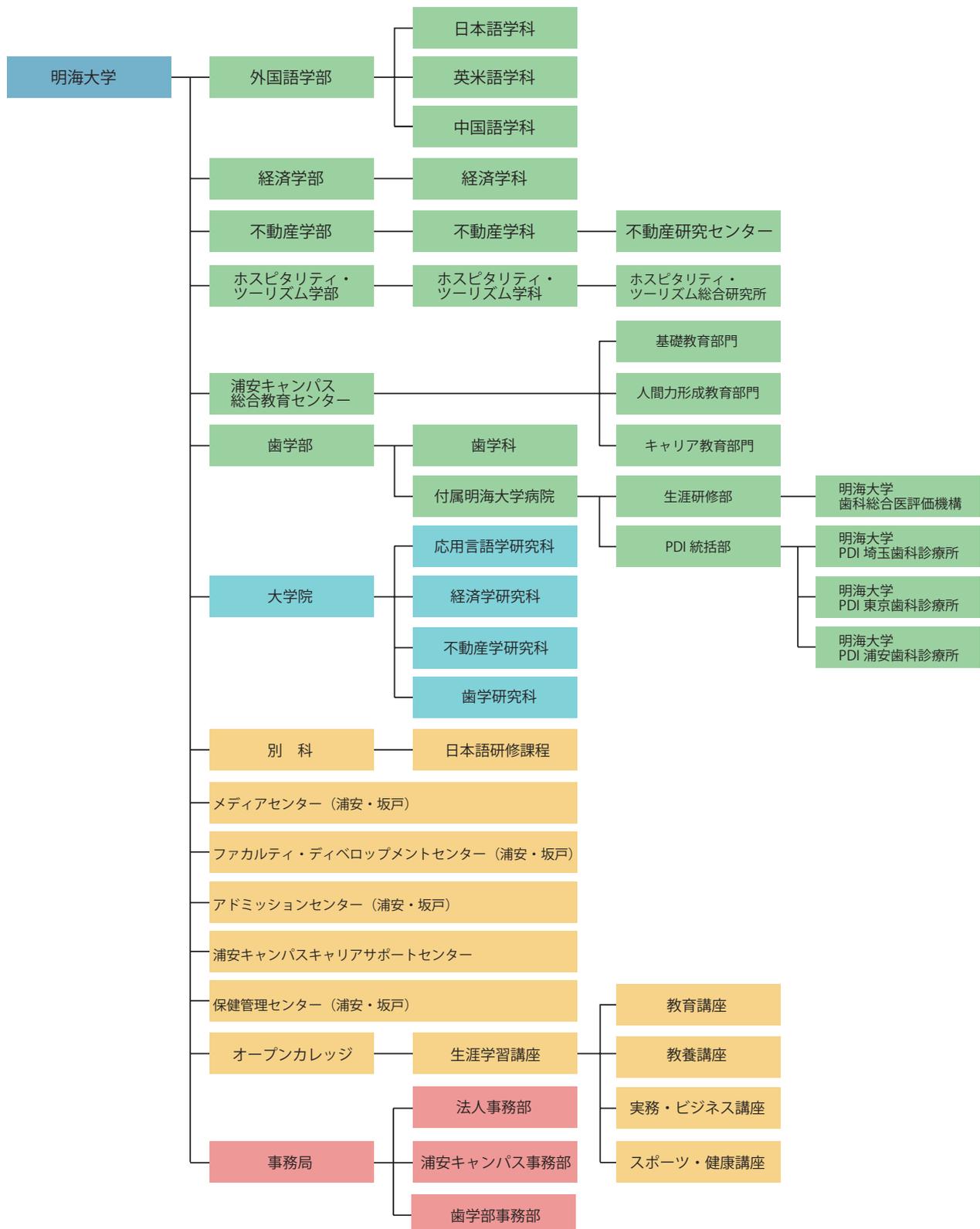
■ 事務局役職者

事務局長	中山 浩之	歯学部事務部長	伊藤 敦
法人事務部長	遠藤 和也	事務部次長(医療担当)	掛川 智広
財務課長	遠藤 和也	庶務課長	佐野 一浩
秘書課長	遠藤 和也	経理課長	根本 誓子
浦安キャンパス事務部長	竹部 正樹	管理課長	相場 勲
庶務課長	竹部 正樹	学事課長	伊藤 敦
経理課長	池田 浩明	メディアセンター事務課長	永田 美絵
管理課長	相場 勲	明海大学病院事務課長	掛川 智広
学生支援課長	鈴木 洋州	生涯研修部担当課長	掛川 智広
企画広報課長	星 良治	PDI 歯科診療所事務課長	掛川 智広
学事課長	樋口 早苗		
メディアセンター事務課長	永田 美絵		

■ 監査・評価室

監査・評価室長	地下 和弘
---------	-------

■ 組織図



※学校法人の概要は 2015 年 5 月 1 日現在 (資産の総額を除く)

# 事業報告

## ■ 教育の質の向上

大学の持続的な発展のため、本学は教育の質の向上を最重要課題として取組んでまいりました。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、学生データベースや授業出欠管理システムを活用したきめ細やかな教育を実践するとともに、良質な教育の根幹となる教職員の資質向上のため学部の特徴を踏まえたFDや職階に応じたSDを推進してまいりました。

歯学部では歯科医療の未来を見据えカリキュラム改革に取組んで来た結果、臨床力強化を目的とした臨床系科目・臨床実習が充実した新カリキュラムを2015年度からスタートすることとなりました。また、大学院と生涯研修の連携強化を図るとともに、昨年3月には生涯研修の一環として、「明海大学歯科総合医育成コース認定医制度」を開設し、国民のニーズに包括的に対応できる歯科総合医の育成に取組んでまいりました。なお、第108回歯科医師国家試験では、新卒・既卒を合わせた合格率が全国平均を下回りましたが、原因分析と指導方法の改善を図り、少人数グループによるチュートリアル教育を徹底し、全国トップクラスの合格率をめざしてまいります。

一方、浦安キャンパスでは、学部等の特色を一層充実させてまいりました。外国語運用能力と文化やビジネスに関する専門知識を備えたグローバル人材の育成をめざし、昨年4月に外国語学部グローバル・スタディーズ専攻（GSM）を開設したほか、経済学部では簿記検定取得支援と4年間を通じたゼミ担当制を要とする新カリキュラムを2015年4月から開始、不動産学部では昨年度から進級要件の厳格化と不動産関連資格取得の支援強化を図り早くも宅建試験等で成果が見られました。ホスピタリティ・ツーリズム学部では実践教育の徹底により2015年3月卒業生の就職率は100%という結果を残しました。また、海外インターンシップの充実や新たな留学制度、外国人留学生の日本語力向上をめざすカリキュラムなど国際性の涵養と留学生支援を目的とした制度の整備を進めてまいりました。



## ■ 教育研究環境の充実



質の高い教育研究と豊かなキャンパスライフのため、計画的な教育研究環境の整備を進めてまいりました。

歯学部では、少人数教育用のグループ学習室の増設を行ったほか、地域の歯科医療需要に応えるため今夏の完成を目指しPDI浦安歯科診療所の拡充に着手いたしました。また、病理標本をスキャンしてデジタル画像化するバーチャルスライドスキャナー、付属病院手術室の全身麻酔装置の更新など教育研究設備・医療用機器等の充実を図りました。

浦安キャンパスでは、2階AV講義室の設備等の一新、ポータルサイトのスマートフォン対応化による利便性向上などにより学修環境の整備を進めたほか、クラブ活動を支援するた

めサブグラウンドのLED夜間照明設置などキャンパスライフ充実のための整備も進めてまいりました。

また、無線LAN環境の充実等のICT化推進や計画的な老朽化対策にも全学的に取組んでまいりました。

## ■ 地域交流と社会貢献の推進

地域の知の拠点として役割を果たすべく地域交流と社会貢献を推進してまいりました。坂戸市・浦安市等との行政施策面での協力、公開講座やシンポジウムの開催による本学の誇る知的資源の社会への還元、地元自治体等と連携し小学生の知的好奇心を刺激する「こども大学」を開講するなど多様な取組みを行ってまいりました。

歯学部では、多彩な診療科と多くの専門スタッフを有する付属病院をはじめ、PDI埼玉・東京・浦安の各歯科診療所での歯科医療サービスの向上を図ってきたことに加え、地域の歯科医療ニーズに応えるべくPDI浦安歯科診療所の拡充工事にも着手いたしました。また、現役歯科医師をサポートするため他に先駆け取組んで来た歯科医師生涯研修では最新の歯科理論・技術を提供してまいりました。

浦安キャンパスでは約28万冊の蔵書を誇る大学図書館の市民開放や多彩な講座と充実したスポーツ施設・設備を有するオープンカレッジにより地域住民の生涯学習を推進してきたことに加え、新たな取組みとして青少年育成のためジェフユナイテッド株式会社と協力し小学生を対象としたサッカースクールを開催いたしました。昨年7月には、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、ホスピタリティ・ツーリズム総合研

研究所を設置し、観光業の発展と人材育成に貢献するため、HT 業界の企業等との研究交流を進めていく予定です。

また、地域社会のみならず新たにベトナム・フエ大学、南アフリカ・ウェスタンケープ大学との学術交流を締結し、国際交流も従来以上に進めてまいりました。

## ■ 優秀な学生確保

本学の魅力と多様な取組みを余すことなく発信し、社会的評価の向上と優秀な学生確保に繋げるため、マーケティング分析に基づき、効果的な広報活動を行ってまいりました。

マスメディアの特性を十分に活かし魅力的な広告掲載やニュースリリースなどの情報発信を積極的に行う一方、ホームページでは大学の詳細な情報を伝えるためコンテンツの充実と最新情報の迅速な公開を徹底してまいりました。また、優秀な外国人留学生確保のため、中国語、英語など7か国語に対応したサイトも開設いたしました。

受験生や父母が本学を訪れる機会となるオープンキャンパスでは、教職員・在学生が一体となって懇切丁寧な対応で本学の魅力を直に伝えてまいりました。また、参加・体験型プログラムで学科の魅力を紹介する One Day セミナーや受験生に入試対策アドバイスをする入試相談会など工夫を凝らしたイベントを開催してまいりました。

また、専門スタッフによる高校訪問により進路指導担当教員への情報提供と信頼関係の構築を図る一方、高校への模擬授業講師の派遣、高校単位での大学見学の受入れなど高校へのアプローチも推進してまいりました。



## ■ 安定した財務基盤の維持

長期的な視点に立った合理的な予算編成と執行、科学研究費助成事業や企業等からの受託研究費などの外部資金獲得の推進、安全性と確実性を重視した組織的な運用により、財務基盤のさらなる強化を図りました。とりわけ資産運用については、堅実な運用方針のもと 2014 年度も良好なパフォーマンスを得ることができました。

## ■ 入学者の状況

2015 年度入学試験は、学部志願者総数は 2,595 人で前年度対比 458 人増（21.4%増）となりました。歯学部志願者は前年度の国家試験の好成績もあり前年度比約 95%増となりましたが、外国語、経済、不動産学部では募集人員を充足できませんでした。入学者数は 986 人で、募集人員充足率は 75.0%となりました。

### 2015 年度入学試験結果

学部等	学科・研究科等	募集人員	志願者	入学者
外国語学部	日本語学科	80	110	66
	英米語学科	200	431	167
	中国語学科	70	43	17
経済学部	経済学科	400	420	248
不動産学部	不動産学科	250	224	148
ホスピタリティ・ツーリズム学部	ホスピタリティ・ツーリズム学科	200	522	225
歯学部	歯学科	115	845	115
<b>学部計</b>		<b>1,315</b>	<b>2,595</b>	<b>986</b>
大学院	応用言語学研究科	20	26	13
	経済学研究科	15	18	10
	不動産学研究科	18	7	4
	歯学研究科	18	16	15
<b>大学院計</b>		<b>71</b>	<b>67</b>	<b>42</b>
別科	日本語研修課程	65	48	29
<b>合計</b>		<b>1,451</b>	<b>2,710</b>	<b>1,057</b>

(注記)

1. 浦安キャンパスの3年次編入学及び歯学部の欠員補充（入学者合計18人）を除く
2. 別科の志願者及び入学者数にはD・E日程を含まない

# 決算報告

## 第45期(2014年度)決算

第45期(2014年度)決算は、帰属収入が前年度決算対比-19.6%、37億3,760万円減の153億3,792万円となりました。

消費収入では、手数料が1,094万円増、資産運用収入が3億2,392万円増、事業収入が281万円増、雑収入が3,586万円増となる一方、学生生徒等納付金が1億1,092万円減、寄付金が1,151万円減、補助金が4億7,518万円減、資産売却差額が34億2,955万円減、医療収入が8,396万円減となりました。また、基本金は計画に基づき71億1,235万円を組入れ、消費収入の合計は82億2,557万円となりました。

消費支出では、管理経費が1,355万円増となる一方、人件費が2億1,785万円減、教育研究経費が2,094万円減、資産処分差額が14億2,570万円減、徴収不能額及び徴収不能引当金繰入額が1,103万円減となったことなどにより、全体では前年度決算対比-15.4%、16億6,199万円減の91億617万円となりました。

これにより当年度消費支出超過額は8億8,060万円となり、翌年度繰越消費支出超過額は12億9,112万円となりました。

### 資金収支計算書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

(円)

収入の部				
科	目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入		6,399,618,000	6,393,232,166	6,385,834
手数料収入		70,248,000	81,541,160	△ 11,293,160
寄付金収入		0	8,580,000	△ 8,580,000
補助金収入		583,395,000	530,928,423	52,466,577
国庫補助金収入		582,957,000	530,612,000	52,345,000
地方公共団体補助金収入		438,000	316,423	121,577
資産運用収入		2,132,485,000	4,976,378,676	△ 2,843,893,676
資産売却収入		11,000,000,000	14,044,081,433	△ 3,044,081,433
事業収入		265,076,000	223,632,151	41,443,849
医療収入		1,981,740,000	1,839,733,375	142,006,625
雑収入		58,114,000	101,969,019	△ 43,855,019
前受金収入		1,014,603,000	933,188,734	81,414,266
その他の収入		9,604,225,397	9,196,002,557	408,222,840
資金収入調整勘定		△ 1,187,246,989	△ 1,270,552,154	83,305,165
前年度繰越支払資金		15,823,812,182	15,823,812,182	—
<b>収入の部合計</b>		<b>47,746,069,590</b>	<b>52,882,527,722</b>	<b>△ 5,136,458,132</b>
支出の部				
科	目	予 算	決 算	差 異
人件費支出		5,410,265,000	5,233,868,192	176,396,808
教育研究経費支出		2,599,342,155	2,487,143,868	112,198,287
管理経費支出		722,943,427	678,001,919	44,941,508
施設関係支出		38,800,000	118,851,121	△ 80,051,121
設備関係支出		148,186,000	157,021,203	△ 8,835,203
資産運用支出		18,020,774,000	33,729,415,773	△ 15,708,641,773
その他の支出		3,108,308,132	2,799,780,734	308,527,398
		[28,325,582]	—	—
[予備費]		21,674,418	—	21,674,418
資金支出調整勘定		△ 538,410,509	△ 649,898,277	111,487,768
次年度繰越支払資金		18,214,186,967	8,328,343,189	9,885,843,778
<b>支出の部合計</b>		<b>47,746,069,590</b>	<b>52,882,527,722</b>	<b>△ 5,136,458,132</b>

(注記)

予備費 28,325,582 円の使用額は次のとおりである。

教育研究経費支出 21,216,155 円  
管理経費支出 7,109,427 円

## 消費収支計算書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

(円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	6,399,618,000	6,393,232,166	6,385,834
手数料	70,248,000	81,720,260	△ 11,472,260
寄付金	0	21,953,798	△ 21,953,798
補助金	583,395,000	530,928,423	52,466,577
国庫補助金	582,957,000	530,612,000	52,345,000
地方公共団体補助金	438,000	316,423	121,577
資産運用収入	2,132,485,000	4,976,378,676	△ 2,843,893,676
資産売却差額	0	1,168,261,710	△ 1,168,261,710
事業収入	265,076,000	223,632,151	41,443,849
医療収入	1,981,740,000	1,839,733,375	142,006,625
雑収入	58,114,000	102,079,893	△ 43,965,893
帰属収入合計	11,490,676,000	15,337,920,452	△ 3,847,244,452
基本金組入額合計	△ 7,187,986,000	△ 7,112,347,537	△ 75,638,463
消費収入の部合計	4,302,690,000	8,225,572,915	△ 3,922,882,915
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	5,306,637,000	5,129,617,797	177,019,203
教育研究経費	3,246,057,155	3,103,039,202	143,017,953
管理経費	824,639,427	769,593,148	55,046,279
資産処分差額	0	57,923,125	△ 57,923,125
徴収不能額	23,450,000	17,997,500	5,452,500
徴収不能引当金繰入額	25,640,000	28,004,222	△ 2,364,222
〔予 備 費〕	[ 28,325,582 ]	—	—
	21,674,418		21,674,418
消費支出の部合計	9,448,098,000	9,106,174,994	341,923,006
当年度消費支出超過額	5,145,408,000	880,602,079	—
前年度繰越消費支出超過額	410,518,516	410,518,516	—
翌年度繰越消費支出超過額	5,555,926,516	1,291,120,595	—

(注記)

予備費 28,325,582 円の使用額は次のとおりである。

教育研究経費	21,216,155 円
管理経費	7,109,427 円



貸借対照表  
(2015年3月31日)

(円)

資 産 の 部				
科	目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産		150,038,478,382	136,663,919,106	13,374,559,276
有形固定資産		39,360,404,673	39,797,492,364	△ 437,087,691
土地		27,283,014,283	27,283,014,283	0
建物		7,879,833,457	8,192,806,017	△ 312,972,560
構築物		211,429,702	281,809,504	△ 70,379,802
教育研究用機器備品		689,150,738	769,075,167	△ 79,924,429
その他の機器備品		40,100,254	34,347,349	5,752,905
図書		3,234,385,436	3,236,440,041	△ 2,054,605
その他		22,490,803	3	22,490,800
その他の固定資産		110,678,073,709	96,866,426,742	13,811,646,967
有価証券		11,282,713,155	4,365,847,776	6,916,865,379
長期貸付金		23,545,493	25,184,132	△ 1,638,639
退職給与引当特定資産		2,953,026,300	3,057,276,695	△ 104,250,395
第2号基本金引当資産		8,512,000,000	8,111,000,000	401,000,000
第3号基本金引当資産		87,403,000,000	80,803,000,000	6,600,000,000
その他		503,788,761	504,118,139	△ 329,378
流動資産		8,622,165,946	16,088,935,921	△ 7,466,769,975
現金預金		8,328,343,189	15,823,812,182	△ 7,495,468,993
未収入金		207,178,915	173,768,646	33,410,269
貯蔵品		15,434,726	16,071,852	△ 637,126
短期貸付金		4,346,153	5,070,277	△ 724,124
その他		66,862,963	70,212,964	△ 3,350,001
<b>資産の部合計</b>		<b>158,660,644,328</b>	<b>152,752,855,027</b>	<b>5,907,789,301</b>
負 債 の 部				
固定負債		2,953,026,300	3,057,276,695	△ 104,250,395
退職給与引当金		2,953,026,300	3,057,276,695	△ 104,250,395
流動負債		1,624,685,026	1,844,390,788	△ 219,705,762
未払金		611,487,768	747,490,571	△ 136,002,803
前受金		933,188,734	1,011,888,989	△ 78,700,255
預り金		80,008,524	85,011,228	△ 5,002,704
<b>負債の部合計</b>		<b>4,577,711,326</b>	<b>4,901,667,483</b>	<b>△ 323,956,157</b>
基 本 金 の 部				
第1号基本金		58,759,053,597	58,647,706,060	111,347,537
第2号基本金		8,512,000,000	8,111,000,000	401,000,000
第3号基本金		87,403,000,000	80,803,000,000	6,600,000,000
第4号基本金		700,000,000	700,000,000	0
<b>基本金の部合計</b>		<b>155,374,053,597</b>	<b>148,261,706,060</b>	<b>7,112,347,537</b>
消費収支差額の部				
翌年度繰越消費支出超過額		1,291,120,595	410,518,516	880,602,079
<b>消費収支差額の部合計</b>		<b>△ 1,291,120,595</b>	<b>△ 410,518,516</b>	<b>△ 880,602,079</b>
負債・基本金・消費収支差額の部合計				
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計		158,660,644,328	152,752,855,027	5,907,789,301

(注記)

## 1. 重要な会計方針

## ①引当金の計上基準

## 徴収不能引当金

債権の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

## 退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額 2,953,026,300 円を 100%計上している。

## ②その他の重要な会計方針

## 有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

## たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法である。

## 外貨建資産・負債等の本邦通貨への換算基準

外貨建短期金銭債権債務については、期末時の為替相場により円換算しており、外貨建長期金銭債権債務については、取得時又は発生時の為替相場により円換算している。

## 預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金に係る収入と支出は総額で表示している。

## 食堂その他教育研究活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は総額で表示している。

## 減価償却の方法

残存価額を零円とする定額法による減価償却を実施している。主な耐用年数は以下のとおりである。

建物 60年 構築物 15年 機器備品 7年 ソフトウェア 5年

## 2. 重要な会計方針の変更等 なし

## 3. 減価償却額の累計額の合計額

21,123,577,664 円

## 4. 徴収不能引当金の合計額

34,266,760 円

## 5. 担保に供されている資産の種類及び額 なし

## 6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

(基本金未組入高の当期末残高)

77,030,747 円

## 7. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(以下省略)

## 財 産 目 録

(2015年3月31日現在)

(円)

資 産			
科 目	数 量	金 額	
基本財産		136,114,985,831	
土地	265,700.369 m <sup>2</sup>	24,642,234,887	
建物	91,574.18 m <sup>2</sup>	7,879,833,457	
図書	426,029 冊	3,234,385,436	
教具・校具及び備品	26,670 点	729,250,992	
その他の基本財産		99,629,281,059	
運用財産		22,545,658,497	
現金・預金		8,328,343,189	
その他の運用財産		14,217,315,308	
<b>資産総額</b>		<b>158,660,644,328</b>	
負 債			
固定負債		2,953,026,300	
退職給与引当金		2,953,026,300	
流動負債		1,624,685,026	
前受金		933,188,734	
その他の流動負債		691,496,292	
<b>負債総額</b>		<b>4,577,711,326</b>	
正 味 財 産			
<b>正味財産 (資産総額－負債総額)</b>		<b>154,082,933,002</b>	

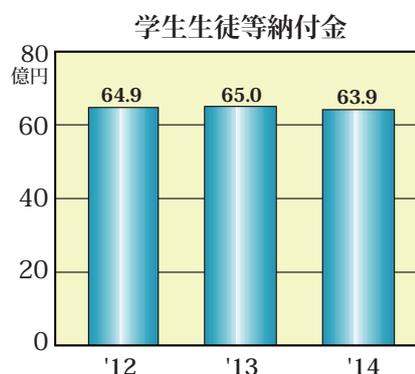
## 主要科目の決算額推移

### ■ 学生生徒等納付金・奨学給付

学生生徒等納付金は、63億9,323万円で前年度対比1億1,092万円の減となりました。

主な要因は、歯学部では在籍学生数の増加と2011年度に抜本的に改定した学納金体系の年次進行に伴い歯学教育充実費が増加したこと等により2億37万円増加する一方、浦安キャンパスでは在籍学生数の減少が影響し3億1,129万円減少したことによるものです。

なお、奨学費は4億1,965万円で前年度対比3,873万円の減となりました。これは、資格取得や海外留学を支援する奨学費が増加する一方、スポーツ奨励に係る奨学金、私費外国人留学生学費減免、東日本大震災による罹災学生への奨学費等が減少したことによるものです。

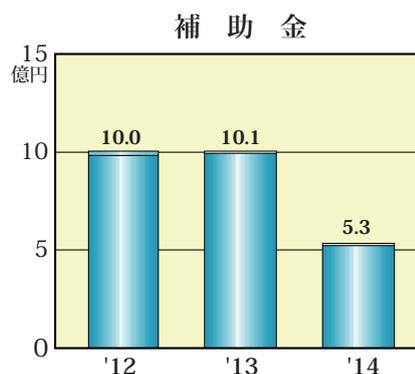


### ■ 補助金

補助金は5億3,093万円で、前年度対比4億7,518万円の減となりました。

このうち、私立大学等経常費補助金は、入学定員超過による歯学部の補助金不交付措置の影響で前年比で4億5,348万円の減となりました。一方、教育の質的転換、地域発展、グローバル化等に対する本学の取組みが評価され、私立大学等改革総合支援事業のタイプ1から4のすべてに選定されたことに伴い特別補助が3,900万円の加算と一般補助の一部について19.1%の増額等があり、合計で4億4,584万円となりました。また、文部科学省関係補助金は、私立学校施設整備費補助金（ICT活用推進事業）591万円、大学改革推進等補助金100万円の合計690万円となりました。

このほか、埼玉県歯科医師臨床研修補助金は7,787万円、千葉県結核予防費補助金は32万円となっております。



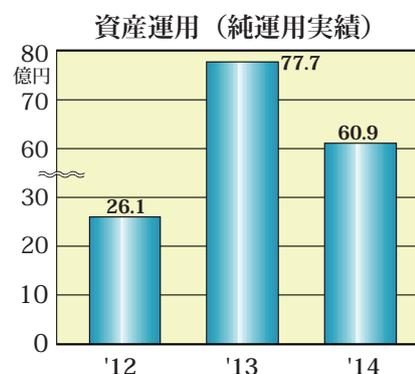
### ■ 資産運用収入

日銀による量的・質的金融緩和政策の継続、年度後半からの原油安とフォローの風が、デフレから徐々にインフレへと日本経済を向かわせつつある1年でありました。

このような中で2014年度の資産運用収入は受取利息・配当金が49億6,242万円、施設設備利用料1,396万円の合計49億7,638万円を計上し、前年度対比3億2,392万円の増となりました。

なお、受取利息・配当金に当年度中の償還・売却に伴う有価証券売却差額及び有価証券処分差額を加減した純運用実績は、60億9,170万円と2年連続で高水準となりましたが、前年度はさらに投資信託売却による多額の有価証券売却差額を計上した関係で、前年度対比では16億8,268万円減少となりました。

今後とも、安全性に十分留意するとともに、経済・金融情勢の変化を的確に判断し効果的かつ堅実な運用を行ってまいります。



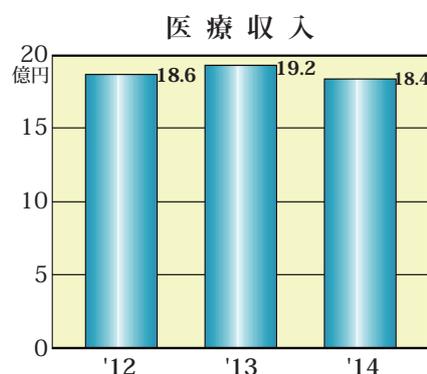
## 医療収入

医療収入は、18億3,973万円で、前年度対比8,396万円の減となりました。

内訳は、付属病院が4,053万円減の13億606万円、PDI各診療所のうち埼玉が4,913万円減の3億1,474円、東京が1,161万円増の7,682万円、浦安が592万円減の1億4,211万円となっております。

医療収入の減少理由は、前年度に消費税増税前の自費診療件数増があった反動によるものと推測されます。

2015年度は、地域の歯科医療ニーズに応えるため今夏の完成に向けてPDI浦安歯科診療所の拡充工事に着手したことをはじめ、歯科医療サービスの一層の向上を図り、安定した医療収入の確保をめざしてまいります。

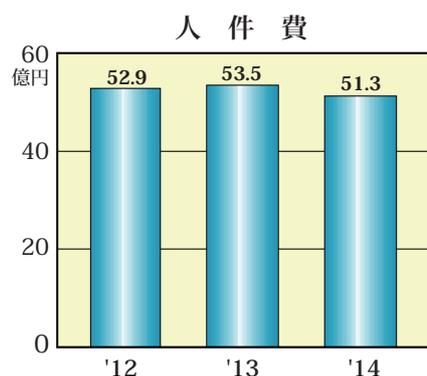


## 人件費

人件費は51億2,962万円で、前年度対比2億1,785万円の減となりました。

これは、定年退職及びこれに伴う人事計画の進行等により、結果として人件費減少に繋がったものです。

2015年度は、教育研究及び診療体制の向上を図るため、歯学部への講座再編と強化による人件費増を見込んでおりますが、社会的合理性のある賃金水準を維持しながら、適正な人事管理と評価を実施し、安定的な人件費支出を維持できるよう努めてまいります。



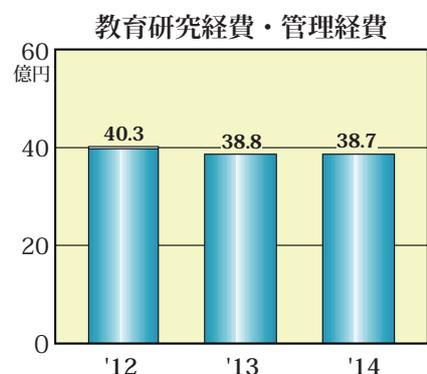
## 教育研究経費・管理経費

教育研究経費・管理経費は合計38億7,263万円で、前年度対比740万円の減となりました。

この内、教育研究経費は2,094万円減の31億304万円、管理経費は1,355万円増の7億6,959万円となっております。

これは、教育研究経費では効果的な運用へ改善を行った奨学金が前年度対比で3,873万円の減となったことと、管理経費については学校法人会計基準改正への対応及び法令改正に伴う歯科医事システム変更による業務委託費の増加等の影響によるものです。

今後も、経費節減を図りつつ重点項目には適正な支出を行うメリハリのある執行に努めてまいります。



## 決算3期比較

### ■ 資金収支計算書推移

(千円)

	2012年度	2013年度	2014年度
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	6,488,415	6,504,152	6,393,232
手数料収入	78,826	70,576	81,541
寄付金収入	18,680	16,947	8,580
補助金収入	1,004,257	1,006,112	530,928
国庫補助金収入	1,003,885	1,005,751	530,612
地方公共団体補助金収入	372	361	316
資産運用収入	4,144,000	4,652,455	4,976,379
資産売却収入	9,732,775	37,237,509	14,044,081
事業収入	255,093	220,823	223,632
医療収入	1,863,435	1,923,697	1,839,733
雑収入	139,556	66,171	101,969
前受金収入	1,081,236	1,011,889	933,189
その他の収入	9,866,058	9,478,066	9,196,003
資金収入調整勘定	△ 1,332,628	△ 1,316,326	△ 1,270,552
前年度繰越支払資金	13,374,737	15,641,111	15,823,812
<b>収入の部合計</b>	<b>46,714,438</b>	<b>76,513,182</b>	<b>52,882,528</b>
<b>支出の部</b>			
人件費支出	5,322,211	5,527,768	5,233,868
教育研究経費支出	2,475,510	2,494,067	2,487,144
管理経費支出	798,543	659,210	678,002
施設関係支出	72,341	63,280	118,851
設備関係支出	247,524	205,302	157,021
資産運用支出	20,161,430	49,603,497	33,729,416
その他の支出	2,617,071	2,931,304	2,799,781
資金支出調整勘定	△ 621,303	△ 795,057	△ 649,898
次年度繰越支払資金	15,641,111	15,823,812	8,328,343
<b>支出の部合計</b>	<b>46,714,438</b>	<b>76,513,182</b>	<b>52,882,528</b>

※記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しています。



## 消費収支計算書推移

(千円)

	2012年度	2013年度	2014年度
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	6,488,415	6,504,152	6,393,232
手数料	79,048	70,781	81,720
寄付金	27,695	33,468	21,954
補助金	1,004,257	1,006,112	530,928
国庫補助金	1,003,885	1,005,751	530,612
地方公共団体補助金	372	361	316
資産運用収入	4,144,000	4,652,455	4,976,379
資産売却差額	31,002	4,597,810	1,168,262
事業収入	255,093	220,823	223,632
医療収入	1,863,435	1,923,697	1,839,733
雑収入	139,668	66,222	102,080
<b>帰属収入合計</b>	<b>14,032,613</b>	<b>19,075,520</b>	<b>15,337,920</b>
<b>基本金組入額合計</b>	<b>△ 7,178,647</b>	<b>△ 7,098,000</b>	<b>△ 7,112,348</b>
<b>消費収入の部合計</b>	<b>6,853,965</b>	<b>11,977,521</b>	<b>8,225,573</b>
<b>消費支出の部</b>			
人件費	5,292,408	5,347,472	5,129,618
教育研究経費	3,119,638	3,123,984	3,103,039
管理経費	908,302	756,047	769,593
資産処分差額	1,587,964	1,483,627	57,923
徴収不能額	30,057	25,327	17,998
徴収不能引当金繰入額	17,179	31,708	28,004
<b>消費支出の部合計</b>	<b>10,955,548</b>	<b>10,768,165</b>	<b>9,106,175</b>
<b>当年度消費収入超過額</b>	<b>△ 4,101,583</b>	<b>1,209,356</b>	<b>△ 880,602</b>
<b>前年度繰越消費収入超過額</b>	<b>2,481,709</b>	<b>△ 1,619,874</b>	<b>△ 410,519</b>
<b>翌年度繰越消費収入超過額</b>	<b>△ 1,619,874</b>	<b>△ 410,519</b>	<b>△ 1,291,121</b>

※記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しています。



## ■ 貸借対照表推移

(千円)

	2012年度	2013年度	2014年度
<b>資産の部</b>			
固定資産	128,629,279	136,663,919	150,038,478
有形固定資産	40,249,927	39,797,492	39,360,405
その他の固定資産	88,379,352	96,866,427	110,678,074
流動資産	15,933,398	16,088,936	8,622,166
<b>資産の部合計</b>	<b>144,562,677</b>	<b>152,752,855</b>	<b>158,660,644</b>
<b>負債の部</b>			
固定負債	3,237,572	3,057,277	2,953,026
流動負債	1,781,273	1,844,391	1,624,685
<b>負債の部合計</b>	<b>5,018,845</b>	<b>4,901,667</b>	<b>4,577,711</b>
<b>基本金の部</b>			
第1号基本金	58,550,706	58,647,706	58,759,054
第2号基本金	7,710,000	8,111,000	8,512,000
第3号基本金	74,203,000	80,803,000	87,403,000
第4号基本金	700,000	700,000	700,000
<b>基本金の部合計</b>	<b>141,163,706</b>	<b>148,261,706</b>	<b>155,374,054</b>
<b>消費収支差額の部</b>			
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>△ 1,619,874</b>	<b>△ 410,519</b>	<b>△ 1,291,121</b>
<b>負債・基本金・消費収支差額の部 合計</b>			
<b>負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部 合計</b>	<b>144,562,677</b>	<b>152,752,855</b>	<b>158,660,644</b>

※記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しています。



# 監査報告書

2015年5月19日

## 監査報告書

学校法人 明海大学  
理事長 宮田 淳 殿

学校法人 明海大学

監事 永松 榮 司

監事 菱田 健 治

私たちは、学校法人明海大学の監事として、私立学校法第37条第3項の規定に基づき、同法人の2014年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで）における計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録並びに附属明細表）及び法人の業務と財産に関し監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会・評議員会に毎回出席するほか理事から業務の報告を聴取し、理事会・評議員会議事録等重要な決裁書類を閲覧・精査、仰星監査法人の会計監査にその都度立会・質問するなど必要と思われる業務を実施しました。

監査の結果、私たちは、法人の業務内容・決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を適正に表示しており、法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以 上

## ■ 1,075 人の新入生が希望を胸に入学

4月3日、浦安キャンパスで2015年度入学式が行われ、学部、大学院、別科に1,075人の新入生を迎え入れました。

安井利一学長が入学許可を宣した後、「建学の精神として掲げている『社会性・創造性・合理性』を身につけ、社会人として巣立つ前に本学で人間的基礎力を高めてください。皆さんの成長を大いに期待しています。」と学長告辞を述べると、新入生代表の神友里恵さん（不動産学科）が「建学の精神に基づき、国際的視野を持って人類の繁栄を考える有為な社会人となることをめざし、皆様の期待に応えるよう努力します。」と力強く宣誓した。

続いて挨拶に立った宮田淳理事長は、歯学部の新入生に対して医療人として高い志とマナーを身につけていくこと、浦安キャンパスの新入生に対しては海外研修、インターンシップ等の大学の制度を積極的に利用することを求めた後、「建学の精神にある社会性・創造性・合理性を自分のものとして掴み取り、立派な姿になって4年後に会えることを楽しみにしています。」と激励した。希望に満ちた多くの新入生が、大学を一層活性化していくことが期待されます。



## ■ 南アフリカ共和国の大学歯学部と日本初の学術交流協定締結

歯科医療のグローバル化への対応の一環として、本学は姉妹校の朝日大学とともに南アフリカ共和国・ウェスタンケープ大学歯学部との3大学間の学術交流協定を締結しました。

調印式は3月12日に朝日大学で行われ、宮田淳理事長、安井利一学長、中畠裕歯学部長、ウェスタンケープ大学のユスフ・オスマン歯学部長らが出席しました



ウェスタンケープ大学はケープタウンに位置する7つの学部を有する国立大学で、1959年に開学。歯学部は1974年に設立され、同大学の歯学部学生数は南アフリカ共和国内の歯学部学生総数の約45%を占めるほどであり同国随一の歯学部と言えます。

日本の大学の歯学部・歯科大学が、これまで南アフリカ共和国の大学歯学部と学術交流協定を締結したケースはなく、今般の協定は両国にとって初となります。

今後、歯科医学分野の教育・研究に関する交流を積極的に推進し、さらに若い世代の友好関係を構築することで歯科医療のグローバル化を牽引していきます。

## ■ ホスピタリティ・ツーリズム学部が就職率100%を達成

ホスピタリティ・ツーリズム（HT）学部で2015年3月卒業生の就職希望者に対する就職率が100%を達成しました。

2005年に開設したHT学部は、少人数による実践教育と実務家教員による徹底した指導により、2009年3月に第1期卒業生を送り出して以来、常に90%以上の就職率を確保してきました。今回、第7期卒業生の就職率がついに目標であった100%を達成しました。

第7期卒業生のうち就職希望者は133名。就職先はANAグループ12名、JALグループ2名、JTBグループ7名、グランドハイアット東京を含む一流ホテル19名などHT業界を代表する企業をはじめ、ホテル・旅行・航空・運輸関係を中心に多岐に渡っています。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定であり、HT業界では人材育成が急務となっています。HT学部では、実践教育の徹底、短期及び長期の国内外インターンシップの充実、ゼミを通じた細やかな学生指導などにより、HT業界の第一線で活躍するため必要な知識やマナーを身につけた人材育成を行い社会の要請に応えるとともに、今後も就職率100%を目指します。



## ■ 留学生の日本語能力向上のため新科目「アカデミック日本語」をスタート

700人を超える外国人留学生在学する本学は、留学生在が大学での学修に必要な日本語能力を養成するため、2015年度から新科目「アカデミック日本語」を開設しました。

この科目は浦安キャンパスの4学部に入学者を対象とし、1年次前期に開講。入学直後から集中して実施することで、早期の日本語力向上により円滑にキャンパスライフを送ることができるよう支援するとともに、日本語能力試験で最上位の「N1」レベル相当の力を身につけ、将来日本国内での就職も可能となるようサポートします。また、日本語能力試験で1レベル上げるために必要といわれる300時間の学習時間を確保するために夏季集中授業も開講します。

今年は100人を超える留学生在が当科目を履修し、日本語能力別に編成された約20人ほどの少人数クラスで学んでいます。読解能力、聴解能力、漢字力を身につけるために工夫された授業と教員との豊富なコミュニケーションで、講義を受ける留學生からは笑顔も多くみられます。今後、留學生の日本語力向上に十分な成果が上がるのが期待されます。



## ■ 新入生を対象に学長が講話「大学からのメッセージ」



本学の特色ある授業科目の一つである「学修の基礎」は1年次の必修科目であり、大学で4年間学ぶためのモチベーション形成を目的とした「学修の基礎Ⅰ」、日本語コミュニケーションスキルの修得を目的とした「学修の基礎Ⅱ」、数理スキルを上げ論理的思考力を身に付けることを目的とした「学修の基礎Ⅲ-a」、情報リテラシー修得を目的とした「学修の基礎Ⅲ-b」が開講され、基礎教育の要となっています。

なかでも「学修の基礎Ⅰ」は1クラス30人前後の編成で、「明海大学を良く知る」「ポジティブな自分づくり」「自分の考えを伝える」等を活動テーマにした少人数でのグループワークやプレゼンテーションを中心とした授業が行われ、こ

れから4年間の学修に臨む新入生のモチベーション向上を図っています。4月に行われた初回授業では、安井利一学長が新入生全員を対象として「大学からのメッセージ」と題した講話を行いました。安井学長は建学の精神を説明した上で、「皆さんは今、夢というゴールに向かってスタートラインに立ったところ、大学生活では自分の持っている力を育て、夢に向かって自分自身を作り上げていってほしい。」と激励しました。

## ■ PDI 浦安歯科診療所拡充工事に着手

PDI\*は歯科医師をめざす卒業生のための臨床研修機関であるとともに、地域歯科医療においても大きな役割を担ってきました。

2004年2月に開設されたPDI浦安歯科診療所は、充実した歯科医療サービスにより診療件数が着実に増加しているだけでなく、訪問歯科医療サービス及び高度歯科医療の推進により、地域歯科医療に貢献してきました。

今般、地域の歯科医療ニーズにさらに応えていくために、今夏の完成を目指しPDI浦安歯科診療所の拡充工事に着手しました。増築により床面積を約40%拡大し十分な診療スペース等の確保を図る一方、現在10台の歯科ユニットに高性能機種10台を新たに導入しユニット数を倍増。診療体制と歯科医療サービスの充実を図ります。

付属病院、PDI埼玉歯科診療所、PDI東京歯科診療所についても、歯科医療サービスの一層の充実を図り、地域歯科医療へのさらなる貢献をめざしていきます。

\* Post-Doctoral Institute of Clinical Dentistry



## ■ 学内企業セミナー開催

学生が望むキャリアの実現をサポートするために、入学時からの一貫したキャリア教育や就活コーチングによる学生の個別指導をはじめとした、多様な取組みを行っています。

その一環として、毎年、翌年3月卒業予定者を対象に開催している学内企業セミナーは、今年は3月17日、18日、4月16日、17日の4日間で開催。金融・メーカー・商社・ホテルなど幅広い業界から約240社の企業が参加しました。延べ1,156人の学生が緊張の面持ちで採用担当者らから業界説明や企業紹介を受け、本格化する就職活動を前に貴重な機会を得ることができました。

学生の就活スキル向上のための新たな取組みとしては、今年4月からインターネット環境があれば利用可能なSPI対策（eラーニングシステム）をスタート。授業と連動した運用により、採用試験で多用されるSPI試験に備えます。

今後もきめ細やかな対応で、学生の就職をサポートしていきます。



## ■ ラーニング・アウトカムを明確にした教育制度の改革を推進

学生に到達目標を明示し学修の動機づけを図るとともに、高い教育の質を維持するために、浦安キャンパスの文系各学部では目標とする学修成果（ラーニング・アウトカム）を明確にした教育制度改革を進めています。

その一環として、経済学部では2015年度カリキュラム改革により4年間を通した必修ゼミによる徹底した少人数指導体制を構築した上で、「グローバル経済コース」と「グローバル経営コース」のそれぞれに目標とする学修成果として「経済学検定試験B」、「簿記検定2級」を設定し、学修の動機づけを図っています。

不動産学部では昨年度に新たなカリキュラムをスタート。進級要件を厳格化する一方、不動産・金融業界等で必要とされる宅地建物取引士の資格取得を目標に据え、1年次から必修科目「不動産取引演習」や宅建合宿等で試験対策を行っています。2014年度の宅建試験では1年生の合格率が全国平均を大きく上回る成果を早くも上げています。

また、昨年度グローバル・スタディーズ専攻を開設した外国語学部では外国語運用能力とビジネス等の専門知識の修得、ホスピタリティ・ツーリズム学部ではTOEICを進級要件とした上で、高いコミュニケーションスキル、ビジネスマナーを身につけることを目標に徹底した実践教育を行っています。

教育の質の向上のため、ラーニング・アウトカムもより一層高度化を図り、また、進級要件の厳格化をはじめとした教育制度改革を推進していきます。



## ■ 秋田県横手市で留学生がホームステイ体験

2月14日から16日まで秋田県横手市の協力で「雪国のホットな暮らし体験」が行われ、中国、タイ、マレーシア、台湾、ウズベキスタン出身の留学生9名が参加しました。これは故郷を離れ日本で学ぶ留学生に横手市の一般家庭へのホームステイを体験させることで、家庭の温かさに触れるとともに雪国独特の生活を体験させる貴重な機会を提供するもの。毎年秋には「東北の収穫の秋体験」も行われており、今回で21年目、両体験を合わせた実施回数は39回を数える国際交流行事となっています。



初日にホストファミリーとの対面式の後、ホストファミリーと一緒に雪まつり会場内でかまくら体験。2日目は横手市役所前に集合した後、全員で餅つきやスキーを体験。最終日はそれぞれホストファミリーと過ごした後お別れパーティーが開かれ、留学生たちは温かく迎えてくれたホストファミリーとの別れを惜しんでいました。

## ■ 明海大学体育会

さらなる活躍をめざし体育会の部員たちは、優れた指導者のもと切磋琢磨しています。  
各クラブの主な戦績は次のとおりです。

### □ ヨット部

#### 【2014年度】

- ・関東学生女子ヨット春季選手権大会：  
470級 1位 スナイプ級 5位 総合 4位
- ・関東学生女子ヨット秋季選手権大会：  
470級 1位 スナイプ級 5位 総合 2位
- ・全日本学生女子ヨット選手権大会：  
470級 4位 スナイプ級 8位 総合 5位
- ・関東学生ヨット選手権大会  
470級 2位 スナイプ級 5位 総合 4位
- ・全日本学生ヨット選手権大会：  
470級 7位 スナイプ級 5位 総合 7位

#### 【2015年度】

- ・関東学生女子ヨット春季選手権大会  
470級 4位 スナイプ級 5位 総合 5位
- ・関東学生ヨット春季選手権大会  
470級 5位 スナイプ級 5位 総合 5位

### □ サッカー部

#### 【2014年度】

- ・千葉県大学サッカー選手権大会：優勝
- ・千葉県大学サッカー1部リーグ：優勝
- ・関東大学サッカートーナメント大会出場
- ・関東大学サッカー大会昇格決定戦出場

#### 【2015年度】

- ・千葉県大学サッカー選手権大会出場

### □ 空手道部

#### 【2014年度】

- ・東日本大学空手道選手権大会：  
男子団体組手 ベスト 8 女子団体組手 ベスト 8
- ・関東学生空手道選手権大会  
男子個人組手 遠山大輔（経済学科）ベスト 8
- ・全日本学生空手道個人選手権大会：  
男子個人組手 遠山大輔（経済学科）ベスト 32  
森龍斗（経済学科）ベスト 32
- ・関東大学空手道選手権大会：男子団体組手 ベスト 8
- ・関東学生空手道体重別選手権大会：  
女子 68kg 超級 齋藤秀穂（経済学科）準優勝
- ・全日本大学空手道選手権大会：  
男子団体組手 ベスト 16 女子団体組手 ベスト 16

#### 【2015年度】

- ・関東学生空手道選手権大会：  
男子個人組手 遠山大輔（経済学科）ベスト 8
- ・東日本大学空手道選手権大会  
男子団体組手 ベスト 8 女子団体組手 ベスト 8

### □ 女子硬式庭球部

#### 【2014年度】

- ・関東大学テニストーナメント予選出場
- ・関東大学テニスリーグ第5部：ベスト 16

#### 【2015年度】

- ・関東学生テニストーナメント大会予選出場





[www.meikai.ac.jp](http://www.meikai.ac.jp)